

広島広域都市圏地域貢献人材育成事業
2021年度 事業実施報告について

大学等名	広島修道大学	
教育研究活動	区分	③交流・移住・定住の促進、⑧その他
	テーマ	空き家の掘り起こし・マッチングの仕組みづくり、人口減少対策
連携した市町	安芸太田町	
連携した企業、団体等	安芸太田町役場	
担当教員	広島修道大学 国際コミュニティ学部 准教授 木原 一郎	
参加学生	国際コミュニティ学部 地域行政学科 3年生 1名 国際コミュニティ学部 地域行政学科 1年生 6名	
事業目的	<p>【空き家対策】</p> <p>◎目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家の活用の方策を立案する。 ・現地で現状をより深く知る。 ・学生目線で地域資源を再評価し発信する。 <p>【人口減少対策】</p> <p>◎目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生のうちから進路選択を考えるきっかけとする。 ・地元で起業する良さ、強みを知るきっかけとする。 ⇒なぜ若者の人口減少が進むのか ⇒地元にはやりたい仕事がない ⇒ならば自分の意識で仕事を生み出すのも1つの手ではないか？ ・地元の魅力を肌で感じてもらう。 ⇒地元で育った人材が外へ出ていくことを抑制する。 <p><両取り組みの連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家のリノベーションなどが企画できれば、その場を社会見学・体験遠足のコースに組み込むなどが考えられる。それぞれの成果物を相互利用できる。 	
事業概要と実施状況	<pre> graph TD A[仮説立案ヒアリング] --> B[スタディケーション検証] A --> C[仮説立案プレスト] B --> D[空き家バンク課題検証] C --> E[高校生アンケート調査] D --> F[空き家活用品立案・相談] E --> G[中学生アンケート調査] F --> H[地域報告会兼座談会] G --> H H --> I[来年度の活動仮説立案] </pre>	<p>実施状況</p> <p>今年度の活動は、左の図の通りである。調査・実践する過程の中で、コロナ禍の影響もあり目的や仮説に変化があり、左の活動フロー図の取り組みを行なった。学内での学生間ミーティングは試験期間等以外はほぼ毎週実施した。</p>

【人口減少対策・空き家対策】

仮説立案ヒアリング 2021年9月3日

安芸太田町役場の志水様と申請書類等を元に仮説の検証・再立案のためのヒアリングをおこなった。本来であればキックオフの会でもあるため対面での実施が理想であったが、Zoomによる非対面同時双方向型で実施した。

仮説に対する質疑応答を行なった。その結果、人口減少対策は中学生だけでなく高校生にもアプローチすること、中学生・高校生ともにヒアリングから始めること、空き家対策はスタディケーションの実践に加えて、利活用方法の立案まで目指すことが話し合われた。

スケジュールも見直し、立て直すことになった。

【空き家対策】

スタディケーションの可能性検証 2021年10月7日～10月22日

「はじまりの家」(安芸太田町空き家を活用したお試し移住施設)で、6日間移住体験を行った。実際に現地にお住まいの方に近い生活を送るとともに大学生活(学業)も継続し、また余暇や日常の空き時間は安芸太田町の魅力を享受しながら生活を送る試みを行なった。安芸太田町と本学との立地関係や公共交通機関の現状から、ワーケーションならぬスタディケーションが空き家対策には有効ではないかという仮説を立てた。

スーパーに買い物に行く、近所の方とお話をする、大学まで公共交通機関を使い通学する、授業で課された課題などに取り組むなど日常生活を行なった。安芸太田町の町民の方や企業の方とお話をする機会をいただいた。例えば、広島横川スポーツカルチャークラブ、地域商社あきおた、月ヶ瀬温泉の従業員の方やぶらっとホーム津浪の方など、安芸太田町の様々な人から安芸太田町の現状についてお聞きする機会があった。さらに、深入山での森林セラピーでは安芸太田町ならではの自然の壮大さを実感した。



内訳としては通常時ひとり暮らしをしている学生も少なく、コロナ感染防止対策を徹底したため、移住体験時の学生間のコミュニケーションはほぼなかった。そのため、前後のアンケートにより安芸太田町の知識関心や安芸太田町への移住可能性は向上したが、中山間地域自体への移住可能性は低下した。また記述型設問の回答においても、自分ごととして移住する・空き家対策を講じるイメージまでは至らなかったようである。移住ではなく、今回のように短期滞在型利用として空き家を活用することは可能性があるのではないかと学生たちは考察していた。

空き家バンク登録物件内見・加計商店街付近の空き家視察 2021年11月22日

安芸太田町役場内で職員の方との質疑応答(空き家バンクへの登録への課題)



空き家バンクに登録されている、またこれから登録される物件を内見した。

その後、安芸太田町役場で空き家バンクの意図や登録までのプロセスについて伺い、プレストを行った。午後は加計商店街付近の放置されている空き家を視察し、商店街の各店舗の利用状況を視察した。その後、安芸太田町役場で現状の確認、今後考えられる取り組み内容に関するプレストを行った。

JOCAX3 との話し合い（空き家活用方法提案に関すること） 2021年12月22日

加計地区で月ヶ瀬温泉と蕎麦屋を営む JOCAX3 とお話しする機会をいただき、空き家の活用方法に関することや今後の進め方のディスカッションを行った。コミュニティの拠点とし、地域住民とコミュニケーションをとっていく場が重要であることを学生たちは気づきとして得た。

【人口減少対策】

安芸太田町 志水様とプレスト 2021年10月18日

安芸太田町ががんばるビジネス応援補助金制度にここ数年で加入されている団体がまとめられている資料を見せていただいた。初回ヒアリング以降のメールベースのやりとりで、まずは高校生のアンケートから始めることになっていたため、そのアンケートに関するアドバイスやアンケート作成の参考として安芸太田町のまちづくりアンケートや長期総合計画の資料を見せていただいた。今後は、安芸太田町役場と連携して、Uターンや起業されている団体の方（30代ぐらい）と高校生、大学生で座談会を行ったり、中学生、高校生へのアンケート調査を実施するなどできる限り多くの情報を得られるような活動をしていきたいという方向で話をした。安芸太田町内ではUターンや起業に関する取り組みは7.8年行っていないということだったので、座談会は面白そうだというご意見もいただきました。

加計高校へのアンケート実施

高校生時点でのUターンの意向や地域への愛着度に関するアンケートを実施した。

安芸太田町内の中学生へのアンケート実施

安芸太田町教育委員会を通じて、安芸太田町内の中学生への地域愛着の醸成に関するアンケート調査を行なった。

いずれも今後の活動の仮説を実践する際に、検証評価するための基礎資料として活用することとした。

【空き家対策・人口減少対策】

高校生へのヒアリング・加計高等学校への報告会を兼ねた座談会 2022年3月17日

加計高等学校にて、今年度の報告も兼ねて座談会を実施した。大学側からアンケートの集計と年度当初の仮説の検証結果を共有し、新たに立てた仮説も高校生に共有し、ざっくばらんな意見交換を行なった。来年度高校生も参画したいと打診があった。



【空き家対策】

空き家を利用した「はじまりの家」で短期移住体験をし、自然の中での生活の豊かさを満喫しながら大学の学習と両立させることの検証をした。仕組みとしては両立できる(シェアハウス)が、交通面などで支援はもっと必要であると学生は感じたようである。また滞在中地域の方との様々な交流はあり安芸太田町自体への興味関心は高まったものの、自分でここに住むなどの自分ごととして感じる思いの向上は期待したほどなかった(事前事後アンケート結果より)。おそらく店舗訪問や地域住民との交流も学生にとっては非日常体験であり、日常体験はコロナ対策を講じて各部屋に籠った時間帯と大学までの移動時間であったと考えられる。その部分に豊かさは見出せなかったと考えられる。日常も含む交流や体験の質が重要であることが学生は理解できたようだ。

空き家の視察や役場の方へのヒアリングから空き家バンクへの登録が進まない(登録数が増えない)のは色々な理由が複雑に絡み合っていることが明らかになった。他の地域でも構わないので、空き家バンクへの登録を検討している人を探し、ヒアリングできればよりその複雑さを明らかにできるのではないかと考えることができた。

最終的に空き家利活用案の仮説を立案することができた。

活動の成果

【人口減少対策】

申請時から仮説をかえ、居住年数が長いほど地域への愛着は高まるのではないかとという仮説を立て、コロナ禍でもできるアンケートを実施した。サンプル数が少ないこともあり統計的に優位な傾向は見て取れなかったが、単純集計のクロスソートなどで居住年数は地域愛着に直接的にはつながっていないという兆候は確認できた。体験や日常の中での地域コミュニティとの接点が重要になるのではないかと学生は考察した。

【両対策の相乗効果】

安芸太田町では空き家対策は人口減少対策の一環であり、UIターンも促せるものになるとなお良いと学生たちは理解した。その結果地域の方の思いを活かした空き家を活用したカフェや商品開発が有効であると仮説を立てた。地域コミュニティのつながりの強化と来街者の目的地としての両方の効果を果たし、またシビックプライドや地域愛着につながると考えられる。また座談会で新たな視点が得られ高校生の参画のお申し出をいただいたように、実装していくプロセス(地域の方との対話など)が重要であり、そこからコミュニティや地域愛着の醸成は始まるのではないかと仮説を立てることができた。